

5

管理職を対象とした「生徒による授業評価」による 授業改善の指導・助言に関する質的研究

高谷将宏(常盤木学園高等学校)

要約

本研究は、授業に対する生徒の評価に対して、管理職がどの様に視点を有し、結果を分析しているのかについて着目した。指導・助言をする立場である管理職の視点での成功例や困難な例を把握し、具体的な還元方法や改善方法を生み出す要因を探ることを目的としている。新潟を含む東北7県にアンケート調査を行い、結果をインタビューを併用し分析した。結果、管理職が「生徒による授業評価」に抱いている視点や利点・欠点は教員と近い内容であり、指導助言においては教科の専門性ではなく、「あるべき教師像」を基に行われていることが分かった。また、指導・助言の際も教員の成長を基に行われており、具体的な方策として授業参観が多く行われている。一方、学力に直結していないと感じている事例が多く、授業改善を新たな段階に進める必要性が感じられる。

キーワード：生徒による授業評価、指導・助言、あるべき教師像、授業参観

1. 研究の背景

今日の「教育改革」では、様々に生起する教育問題に対して、個々の学校が当事者能力を向上することが求められている。この様な中、少子化に伴う収容対策を中心に「学校改革」を進めてきた私学はその内容と結果を評価される時期に入っていると感じている。

学校現場に視点を変えると、教師の多様な教育観が存在している。「学校改善」の取り組みは、こうした個々の教員の意識と行動をどの様に結び付けるのかに成否がかかる。この意識と行動が生徒に直接反映されるのは授業である。授業を改善するために近年「生徒による授業評価」が取り入れられている。この取り組みに対して、東京都教育庁は、「授業評価連絡会」が組織され具体的な改善方法を模索している。本校の場合は、校長・副校長・教頭の指導・助言の下、教科主任がその役割を担っている。

建学の精神に基づく教育課程を授業で反映させるため、改善に対する指導・助言の視点は各学校で異なる。この指導・助言をどの様に行い改善が成功したのか、また、どの様なことが指導・助言に際して困難なのかについて検討された先行研究はなされていない。

以上のことから、本研究は、指導・助言をする立場である管理職の視点での成功例や困難な例を

把握し、具体的な還元方法や改善方法を生み出す要因を探ることを目的としている。このことにより授業改善がより良い変容をなし、「学校改善」が促進され「学校改革」の評価を高めることに繋がられると考えている。

2. 研究の方法

新潟県を含む東北地区の私立高等学校の管理職（校長・副校長・教頭）へのアンケート調査（次節で詳細を示す）を行った。

回答を頂いた方のうち、協力していただける場合のみインタビュー調査を行っている。

分析方法には、質的な研究方法を用いた。この方法は、変動する社会に対応する上で必要な柔軟性を保ちながら、その中で起こる現象を研究することが可能であり（ウヴェ 2002）、調査対象者が授業や学びをどの様に捉えているのかを深く分析する上で有効である（北村・倉元 2008）。

(1) 調査概要

① アンケート調査について

アンケート依頼校 101校（普通科設置校）
回答数 60校

② インタビュー調査について

協力校 4校

データ分析

① アンケート調査について

傾向を把握するため質問項目の回答の度数分布を単純集計し分析している。

② インタビュー調査について

インタビュー調査への協力可能校が4校と少ないため、アンケート調査への自由記述の回答を基本としている。なお、アンケート調査での自由記述の補完として反映させている。

3. 結果

(1) 現在、御校では「生徒による授業評価」を実施されていますか？

実施している	34校 (57%)
実施していない	26校 (43%)

(2) 「生徒による授業評価」の実施内容についてお伺いします。

① 導入されてどの位経ちますか？

1年未満	2校 (6%)
1年以上5年未満	10校 (30%)
5年以上10年未満	16校 (48%)
10年以上	5校 (15%)
無回答	1校

② 年度内に何回されていますか？

1回	19校 (56%)
2回	14校 (41%)
3回	1校 (3%)
4回以上	0校 (0%)

③ 主にどなたが担当されていますか？

校長	1校 (3%)
副校長	2校 (6%)
教頭	13校 (38%)
法人の担当者	1校 (3%)
教務主任担当教諭	14校 (41%)
研修主任担当教諭	3校 (9%)

* 「事務長」、「主幹教諭」、「総務主任担当教諭」、「外部委託」、「その他」は、0校

④ 評価対象者の範囲はどの様に設定されていますか？

授業担当者全員	31校 (91%)
専任のみ	1校 (3%)
専任・常勤講師のみ	2校 (6%)

* 「常勤・非常勤のみ」、「教科を限定して実施」、「その他」は、0校

⑤ 「生徒による授業評価」の実施目的は、先生方に理解されていると感じていますか？

よく理解している	15校 (44%)
やや理解している	16校 (47%)
どちらとも言えない	3校 (9%)

* 「あまり理解していない」、「全く理解していない」は、0校

⑥ 「生徒による授業評価」の実施目的は、生徒に理解されていると感じていますか？

よく理解している	9校 (26%)
やや理解している	18校 (53%)
どちらとも言えない	17校 (21%)

* 「あまり理解していない」、「全く理解していない」は、0校

⑦ 教科・科目の視点において評価項目の内容はどの様に設定されていますか？

全教科統一	28校 (82%)
教科ごとに統一	5校 (15%)
科目ごとに違う	1校 (3%)

⑧ 学年の視点において評価項目はどの様に設定されていますか？

全学年統一	34校 (100%)
-------	------------

* 「学年ごとに違う」は、0校

⑨ 設置学科・コースの視点において評価項目はどの様に設定されていますか？

全学科・コース統一	34校 (100%)
-----------	------------

* 「学科・コース毎に違う」は、0校

(3) 「生徒による授業評価」の実施結果についてお伺いします。

① 授業への効果はどの様に感じていますか？

とても効果がある	6校 (18%)
やや効果がある	24校 (71%)
どちらとも言えない	4校 (12%)

* 「あまり効果が無い」、「全く効果が無い」は、0校

② 生徒の学ぶ意欲の変化についてどの様に感じていますか？

やや良い変化がある	14校 (41%)
どちらとも言えない	19校 (56%)
あまり変化が無い	1校 (3%)

* 「とても良い変化がある」、「全く変化が無い」は、0校

③ 生徒の学力に変化についてどの様に感じていますか？

やや良い変化がある 13校 (39%)

どちらとも言えない 16校 (48%)

あまり変化が無い 4校 (12%)

無回答 1校

* 「とても良い変化がある」、「全く変化が無い」は、0校

(4) 「生徒による授業評価」を受けての先生方の取り組みについてお伺いします。

① 授業改善の取り組みにどのような影響があると感じていますか？

とても積極的 3校 (9%)

やや積極的 30校 (88%)

変わらない 1校 (3%)

* 「やや消極的」、「とても消極的」は、0校

② 研修会などへの参加については、どのような影響があると感じていますか？

とても積極的 3校 (9%)

やや積極的 10校 (30%)

変わらない 20校 (61%)

無回答 1校

* 「やや消極的」、「とても消極的」は、0校

③ 教科会議の運営については、どのような影響があると感じていますか？

やや活性化 24校 (71%)

変わらない 10校 (29%)

* 「大きく活性化」、「やや衰退化」「大きく衰退化」は、0校

④ 授業に関する話題や意見交換の機会について、どのような影響があると感じていますか？

とても増えた 1校 (3%)

やや増えた 23校 (68%)

変わらない 10校 (29%)

* 「やや減った」、「とても減った」は、0校

(5) 「生徒による授業評価」と人事評価に係り性はありますか？

反映し、給与にも反映する
2校 (6%)

反映するが、給与には反映
しない 8校 (26%)

無関係 21校 (68%)

無回答 3校

(6) 管理職の方の「生徒による授業評価」への関わりについてお伺いします。

① 先生の方との授業に関する指導・助言の機会について、どのような影響があると感じていますか？

とても増えた 1校 (3%)

やや増えた 22校 (69%)

変わらない 9校 (28%)

無回答 3校

* 「やや減った」、「とても減った」は、0校

② 指導・助言のためにどのような取り組みをされていますか？(複数回答可・回答数97)

授業参観 22校 (23%)

本人と面談 22校 (23%)

教科主任と面談 8校 (28%)

校内研修会を設ける 17校 (18%)

生徒から話を聞く 7校 (7%)

他の先生方から話を聞く 5校 (5%)

保護者から話を聞く 4校 (4%)

自身が研修に参加する 5校 (5%)

関連する書籍を読む 5校 (5%)

他校の方から意見を聞く 1校 (1%)

その他 1校 (1%)

* 「外部に相談する」は、0校

③ ご自身のご専門の教科と違う先生に指導・助言をする場合、どのような影響があると感じていますか？

とてもし易い 2校 (7%)

ややし易い 1校 (3%)

変わらない 17校 (57%)

ややし難い 8校 (26%)

とてもし難い 2校 (7%)

無回答 4校

④ 「生徒による授業評価」を用いた授業改善の利点についてどの様にお考えですか？

- ・ 教師が授業を受ける生徒の立場に立って、自分の授業を振り返る良い機会となる。また、生徒は毎年変わり、教師も変わって行かなければならないことを気づかされる。
- ・ 抽象的にしか分からなかったことが具体的データとして把握でき、具体的な対策がとれるようになった。
- ・ 継続的に実施することで授業満足度を過年度と比較し教育レベルを確認することが可能になる。
- ・ 生徒の視点による評価なので項目には限界

があるものの授業を受けた側の素直な意見がのべられ、また、授業づくりに生徒自らも参加しているという自覚が生まれる。

⑤ 「生徒による授業評価」を用いた授業改善の課題についてどの様にお考えですか？

- ・他の教師と連携しながら、より質の高い授業にまで持って行くこと。
- ・本校の実施方法は無記名によるアンケート方式なので生徒によっては回答内容に疑問を覚える様なものもある。
- ・何年もやっていると、マンネリ化し、評価が低くても生徒に原因を帰し改善しようとならない教師が多もいる。
- ・生徒指導など厳しい教師は評価が低くなってしまいうこともあるようだ。
- ・高評価を求めて受けの良い授業に走りやすく、評価の高い授業が学力向上に繋がっていない場合がある。

⑥ 「生徒による授業評価」を用いた授業改善の結果を用いて、指導・助言する際に効果的な方法があればご紹介ください。

- ・教師の自尊心、向上心をうまく利用するようになる。教師の成長する姿が、生徒の成長に直結することを自覚させる。
- ・週1回の教科会議時に、「生徒による授業評価」の報告会を行っているので、授業改善に効果的な機会になる。
- ・学校全体、学年別、教科別の評価結果を公表し、各人が個人の評価結果と比較するのがもっとも効果的である。また、教師個人に対する要望・意見を出来るだけ要約し配布・公表する。

⑦ 「生徒による授業評価」を用いた授業改善の結果を用いて、指導・助言する際の注意点があればご紹介ください。

- ・教師の人格否定につながらないように指導助言することが大切だと思う。あくまでも、教師の力量を伸ばすことに視点をおくことが大切ではないでしょうか。教師も生徒と同様に“ほめる”ことが大事。
- ・アンケート結果よりも、実際に授業を見て具体的・事例的な指導をすることが重要であると考えます。
- ・注意すべき点は、授業者自身の独自性・独創性が失われ、画一的な授業を行わせないことである。

4. 考察

管理職の視点として、注視すべきは学ぶ意欲・学力の変化に対する感じ方である。効果や変化よりも「どちらとも言えない」との回答が多い。授業改善に取り組む姿勢はやや積極的になり、改善に結びついているが、学ぶ意欲・学力の変化に直結していない状況が存在する。つまり、授業を改善する段階から、授業で伸ばす段階、「分かり易い」から「出来る」への転換が必要となる。

管理職が利点としてあげている「授業の振り返り」、「具体的な対策」、「生徒の授業参加の促進」は、教員と共通している。「比較し教育レベルを確認する」は、管理職独自の視点である。欠点である、「評価の信頼性と妥当性」、「形骸化」、「生徒への迎合」も教員と共通している。

指導・助言においては教科の特性に関する内容は教科主任と連携し対応している。全体的には、「教師としての成長」を求め、あるべき姿に則って声掛けをしていることが多い。こうした点を指導・助言される側が謙虚に受け入れることが改善への鍵となる。

改善のための方策として、授業参観が最も多く挙げられている。教員にとっても心強いが、背景として日常的な授業参観がなされ、コミュニケーションが図られている必要がある。

参考文献

- ・ウヴェ・フリック、小田博志・山本則子・春日常・宮地尚子（訳）、2002、質的研究入門－人間科学のための方法論－、春秋社、p. 1－p. 410
- ・北村勝朗・倉元直樹、2008、学士課程教育プロセスから見た全学教育評価研究の試み(1)－東北大学4年次学生を対象とした学習体験の質的分析－、東北大学高等教育開発推進センター紀要(3)33、p. 33～p. 61